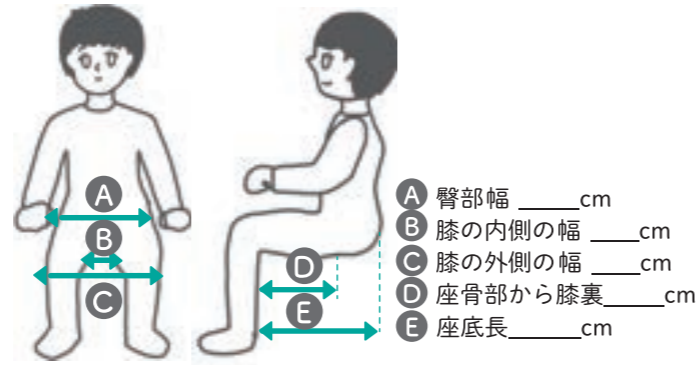


クッションを選ぶ手順

車椅子のクッションは車椅子本体と一緒に、医師や理学療法士、作業療法士等の医療専門職に必ず相談しましょう。身体障害者手帳をお持ちの方が新調・作り替えたい場合は、公的制度「補装具費支給制度」が利用できます。お住まいの自治体の相談窓口にお尋ねください。

【手順の例】

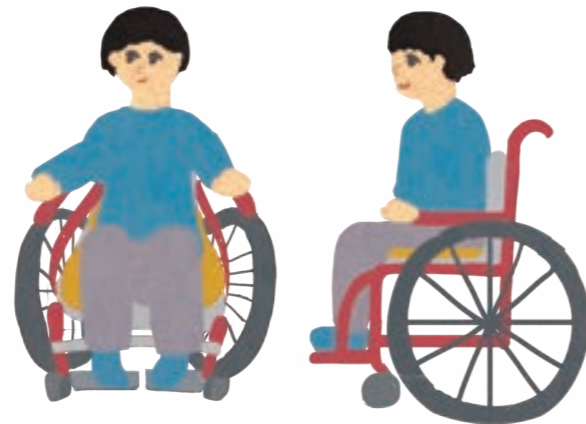
- 1 身体状況 目的 使用環境 を確認
- 2 どういう姿勢で座るか を決める
既成品 or オーダーメイド を決める
形状(厚さ) や 材質 を決める
- 3 採寸 or 採型(強度の変形がある場合) を行う
- 4 試用(仮合わせ)
- 5 下記↓ 効果の確認ポイント を確認する



[車椅子クッションに必要な身体寸法の例]

クッションの効果の確認ポイント

- クッションの奥行き寸法はありますか
※奥行きが長すぎると、お尻が前にずれやすいです。適切な奥行きは、膝裏との間が指2本程度ある状態です。
- お尻が前にずれにくいですか
- お尻と太もも全体で体重を支えられていますか
- 一定時間座って痛みはありませんか
※お尻に褥瘡(床ずれ)の発生が心配な時は、座圧測定をすることによって圧分散効果が高いクッションが選びやすくなります。医療専門職に相談しましょう。
- 移動・移乗はしやすいですか
- 座り心地はよいですか
- 想定している姿勢で座れていますか



管理・メンテナンス

車椅子クッションは、長期間使用すると経年劣化します。定期的にメンテナンスをしましょう。

【身体に合っていますか】

- 成長や身体状況の変化に対応できているか確認をしましょう。
- お尻に痛みがあったり、皮膚に赤みが続いていないか確認をしましょう。

座っている様子を写真に記録しておくことで確認しやすいです。

【経年劣化していませんか】

- お使いのクッションが底付きしていないかなど、劣化度合いを定期的に確認し、気になる時は製作者に相談をしましょう。
- 車椅子本体の経年劣化について、車椅子フレームのガタつき、フットサポートの歪みや高さ、ブレーキの効き具合、タイヤとキャスターのすり減りなども一緒に確認をしましょう。

子どもの 車椅子クッションの 考え方・選び方



このパンフレットは、
子どもの車椅子クッションについて、
基本的な考え方や選び方を紹介しています。

車椅子に座るときは、身体と使用目的に合った座面クッションを使うことが大切です。

快適で活動的な暮らしを支える道具を選んでいきましょう。

協力者：
高岡徹（横浜市総合リハビリテーションセンターセンター長 医師）
白銀暁（国立障害者リハビリテーションセンター研究所 理学療法士）

参考文献：
クッションの選択、白銀暁、MB Med Reha No.245:55-61,2020
小児から高齢者まで使える 車椅子を知るためのシーティング入門(公財)テクノエイド協会、2019
小児から高齢者までの姿勢保持工学的視点を臨床に生かす第2版、SIG姿勢保持、医学書院、2012

企画・作成：横浜市総合リハビリテーションセンター研究開発課 中村詩子（リハビリ工学技師）

このパンフレットで使用しているイラストの無断転載・無断複製はご遠慮ください。イラスト/おおがまめお 発行/一般財団法人 保健福祉広報協会 2024年9月

車椅子の座面は、パイプフレームに硬い布地を張ったスリングシート構造になっています。スリングシートの座面は硬いので、直接座ると、お尻が痛くなりやすいです。また、スリングシートの布地は、たわむので骨盤が傾きやすく、姿勢が不安定になり、くずれやすくなります。必ず、車椅子クッションを使用しましょう。車椅子クッションには、多種多様な機能と材質があるので、一人ひとりの身体や使用目的に合わせて適したものを選びましょう。



座面シートのお悩み取り

折りたたみの車椅子の座面シートは、たわんで姿勢の傾きや圧の集中が起こりやすいので、シートインサートや座板を入れて座面を平らにします。座板は硬いのでクッションを厚くしたり、圧分散の効果が高い素材を部分的に使うなど工夫しましょう。



座面のたわみにおける荷重の偏り

クッションの2つの役割

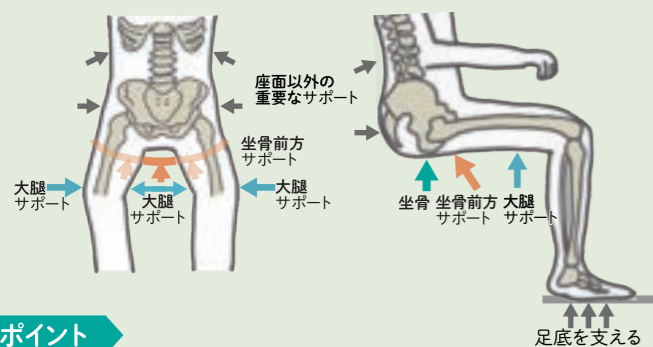
車椅子クッションには、主に2つの役割があります。安定して座ること(姿勢保持)と、接触面のお尻を守ること(圧分散)です。快適に安定して座るために、まず姿勢保持を考えましょう。加えて、お尻に痛みや褥瘡(床ずれ)の発生が起こりやすい方は、褥瘡予防の効果が高いクッションを選びましょう。

お尻が前にずれやすい
身体が傾きやすい

お尻に痛みがある
褥瘡(床ずれ)の心配がある

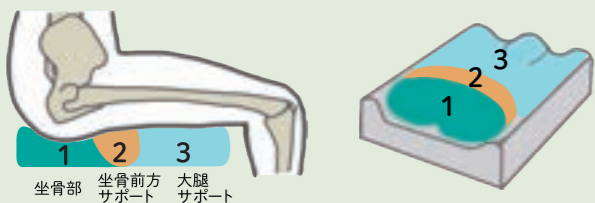
安定して座る (座位保持)

お尻の前すべりを防ぐためには、坐骨を前方からサポートすることと、大腿部をクッションで支えることが大切です。また、姿勢保持は、座面クッションだけでは難しく、背もたれや足台の高さ、クッションやベルトなど組み合わせて実現しましょう。



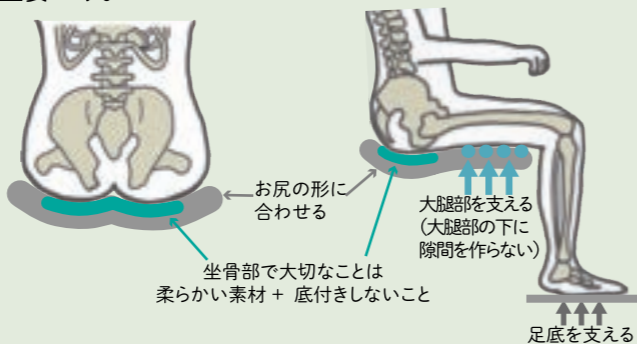
ポイント

- 1 坐骨部の厚さは、底付きしない3~5cm程度
- 2 坐骨前方サポートは、お尻が前方へのずれない傾斜
- 3 大腿サポートは、座った時の形状に合わせて丸みを持たせる

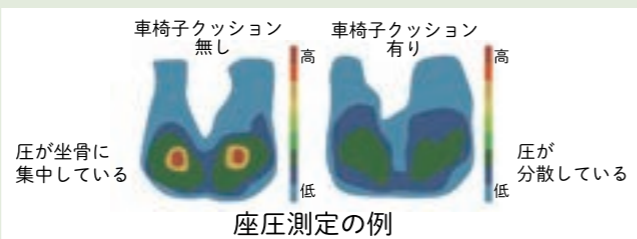


お尻を守る (圧分散)

坐骨に圧が集中しないこと、お尻の皮膚に摩擦がおきないことが大切です。座った時の形状に合わせて支えるトータルコンタクトによって、全面的に支えます。坐骨部は、柔らかい素材で、かつ、底付き感がないことが重要です。加えて、坐骨の圧を軽減するために、大腿部の重さを支えて体重を分散させます。そのためには足台の高さ調整も重要です。



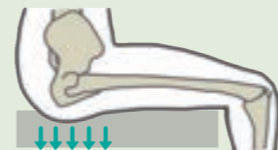
お尻に褥瘡(床ずれ)の発生が心配な時は、座圧測定をすることによって圧分散効果が高いクッションが選びやすくなります。医療専門職に相談しましょう。



クッションの種類と選び方のポイント

車椅子クッションは様々な状態に合わせて多種多様にあります。お尻の筋肉や脂肪のつき方、座位のバランス、変形や関節拘縮など、それぞれの状態に合うクッションが違いますので、選ぶ時は、医療専門職と製作者などと相談して、実際にクッションに座るなど確認しながら選びましょう。

ウレタンフォーム



特性

- ・垂直に収縮する

長所

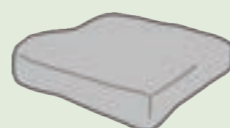
- ・立体加工がしやすい
- ・価格が比較的安価
- ・軽い
- ・種類が豊富にある

短所

- ・蒸れやすい
- ・水分と紫外線で経年劣化
- ・長期間の荷重でつぶれる

メンテナンス

- ・へたりやすいので1年毎に底付きしていないか確認する



ポイント

- ・立体加工・オーダーメイドに適している

半流体ゲル



特性

- ・ゲルが少し移動する

長所

- ・お尻が痛くなりにくい
- ・皮膚の突っ張りが少ない
- ・経年変化がおこりにくい

短所

- ・重い
- ・通気性はない
- ・立体加工がしにくい

メンテナンス

- ・荷重でゲルが動くため、ゲルを適切な場所に手で戻して効果を維持する



ポイント

- ・部分的に用いて褥瘡予防の効果が高い

エア (空気室)



特性

- ・空気が大きく移動する

長所

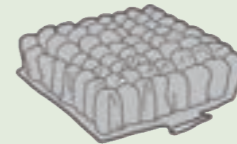
- ・お尻が痛くなりにくい
- ・空気室が臀部形状に沿う
- ・蒸れにくい

短所

- ・空気量の管理が必須
- ・不安定な座り心地
- ・立体加工ができない

メンテナンス

- ・空気量がもれてないか、適正か、最低1ヶ月毎に確認する



ポイント

- ・褥瘡予防の効果が高い空気量の管理ができる方向け

その他の材質

- ・エア (空気室) に自動調節機能があるもの



- ・低反発ウレタンフォーム

- ・皮膚の質感に似た滑らかさと柔軟性があるドライポリマー素材や合成ゴム



- ・高反発ファイバー



- ・ハニカム構造のポリウレタン



- ・ハイブリッドタイプ (ウレタンとエアやゲル等)



オーダーメイド

特性

身体形状に合わせてモールド形状を作製する。主にウレタンフォームを用い、部分的に除圧効果が高い素材を用いるなど多層構造にすることもできる。



長所

- ・現場で加工/修理がしやすい
- ・姿勢保持と、トータルコンタクトによる圧分散の両立
- ・支持面が広い場合活動しやすい場合もある

短所

- ・選定時に試せない
- ・通気性がとぼしい
- ・モールド形状で動きにくい場合もある

メンテナンス

- ・成長や身体変化に合わせて形状の確認と対応
- ・ウレタンフォームの底付きや経年劣化の確認

ポイント

- ・強度の変形や関節拘縮など特殊形状が必要な方向け
- ・成長や身体的変化の対応が短期的に必要な方向け

その他の留意点

カバー：クッションの性能を生かす生地を選び、伸縮性や肌触り、通気性、防水性に配慮しましょう。

クッションの滑り止め：クッションがずれる場合は滑り止めの工夫をしましょう。

座り心地：座り心地の好みは、個人によって違うので、デモ機(試用品)などで確認しましょう。